

別府、盆期間中の観光客調査



「ふっこう割」効果大きく

宿泊客数例年並みに回復

力で劇的に客足が回復した。今後も本格的な回復に向け、力を尽くしたい」と話した。

(2016年8月30日付朝刊別府面)

別府市は29日、盆期間（13～15日）の観光客の入り込み調査結果を発表した。4月の熊本・大分地震の影響で客足が大きく落ち込んでいたが、宿泊客数は前年同期の96%、観光施設の入場者数は同87%まで回復した。

市内のホテル・旅館（32施設）の宿泊客数は3日間で計2万1614人（前年同期比4・3%減）。国、県が発行した旅行クーポン券「九州ふっこう割」の効果が大きく、ほぼ例年並みまで戻った。観海寺・堀田地区では前年より微増となった。

市内と市近郊の観光施設（11施設）の入場者数は計12万4318人（前年同期比13・3%減）。例年より気温が高く、猛暑日が続い

ため、午後からの入り込みが伸び悩んだ施設もあったという。

長野恭紘市長は会見で「観光事業者や市民の行動

① 「前年同期」とはいつのことを指しますか？

② 宿泊客数がほぼ例年並みまで回復した理由を、記事中の言葉を使って説明してみましょう。

③ 観光施設の入場者数が宿泊客数に比べて回復しなかったのはなぜでしょうか。記事の中から読み取ってみましょう。